

26

小川 大志

OGAWA Taishi

合同会社 ogawaa design studio 一級建築士事務所

● 受賞作 MIZKAN MUSEUM



出身：大阪府

1995 年 神戸大学院工学部建築学科
修了 / 1995 年 ~ 2019 年 NTT ファシリ
ティーズ / 2019 年 ogawaa design
studio 設立 / 2023 年 ~ 合同会社
ogawaa design studio 代表社員

未来のヴァナキュラー文化を求めて

今回寄稿の機会をいただいたきっかけは、皮肉にも鈴木禎次先生が設計された旧中荏銀行を取り壊して得た機会によるものだった。ミツカン本社地区には旧中荏銀行のみならず所謂産業遺産というべき古い建屋群が風情ある景観を形成し人気の観光地にもなっていたが、老朽化したその多くを機能更新する必要があった。その魅力を継承しながら新たな価値を生み出すよう努めたが、やはり私は従前の繊細さと野蛮さを併せ持つ何とも言えない雰囲気建屋により一層の魅力を感じた。それは地域で調達できる限られた材料に自分たちなりの工夫を凝らし求められる機能に素直に応えたヴァナキュラー建築の側面を有するもので、人の手から離れていないことが奥行きのある豊かさを生んでいるように思えた。

その後私は 2019 年に大阪で自身のアトリエを開設したが、最初に取り組んだ建築は、大阪の下町における店舗付住宅の改修だった。

既存躯体や外壁の一部利用を前提とし、クライアントに全く新しい環境を提供しつつ町の魅力を継承する方法を模索した。特に意識したのは、自分でも組み立てられそうなくらい物の成り立ちが明快で即物的な設えや身近なルートによる家具調達など、日常生活の延長上にあるものづくりであった。その背景には、この町がある種自己責任で住民が自由に作り上げた断片が寄り集まることで（適切な表現ではないが）バラックがもつような魅力を有しており、それが多くの人を惹きつけていたことがある。ツギハギでも用を成す人間の初源的な行動で生まれる環境には、高度に発達したビルや工業製品からは得難い効用が宿っていて、住人の自由な暮らしを誘発し、よりありのままの町の魅力を引き出す力があるのではないかと思ったからである。



1



2



3

他方、2021 年頃から 3D プリンターを用いた建築の開発に携わらせていただく機会を得て、いくつかのプロジェクトを推進することとなった。

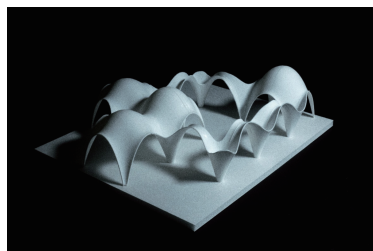
1 つは高強度なモルタルとなるべく圧縮力しか生じさせない建築デザインにより、3DP パーツのみでフォルムを成立させ、セルフビルドに近い形で建築物を建設できる方法を模索する試みであり、もう 1 つは土を主成分とする 3DP 壁と木軸によって「土に還る建築」を実現しサーキュラーエコノミーの実践を試みるものである。

いずれの場合もモデルデータから G コードを書き出してプリンターに送り込み自動的に造形物を出力する先端テクノロジーを用いるものであるが、設計と施工の境界が極めて曖昧であり、実際には実験や試作を繰り返しながら手探りでアナログ的に進めている作業のほうが多い。奇妙なことに将来の技術力や人手不足を解消するとされる建築手法が、セルフビルドが当然だった古代に原点回帰する機会を促し、近代化によって一度設計者やクライアントの手を離れてしまったリアルな建築行為を再解釈するよい機会になっている。またできあがったものはどちらかというと工芸品のようなアナログ感を伴っており、人でなくてもできる工程を極力自動化できたとしても、結局人にしかできない工程の良し悪しはその建築の品質を左右するようにも思われる。3D プリンターは単に大量生産を省力化するツールとなるべきではなく、時代の変化に応じてアップデートされた人の能力を活かし、「固有と普遍」を両立させるツールへと発展させるべきである。

価値観の変化や技術の進歩により、個人でできることの幅が飛躍的に増え、多様性の時代を迎えている。人の手が及ばないぐらい巨大化 / 複雑化し、利便性や合理性の代償に特有の悩みを抱えた社会で、再び各々が自らの権利を取り戻そうとしているようだ。建築家が人と社会をつなぐ役割を担う職業の 1 つなら、課題解決のヒントは、いくつかの土着の知恵のように極度な近代化の中で切り捨てられてきたものの中にもあるように思う。建築もまた今後より巨大化 / 複雑化する側面を持たざるを得ないが、自分はなるべく人の日常からかけ離れた社会を後押しするものではなく、人の手が届く暮らしや社会活動をサポートする役割を担う環境を考え続けたいと思う。



4



5



6



7



8

1. ミツカン本社地区における古い建屋群 2013 年時点（建て替え前） 撮影：小川大志 *
2. t. house（ガラクタのような家）外観（2023 年竣工 大阪市 / 店舗付住宅） 撮影：伊藤 彰（アイフォト）**
3. t. house（ガラクタのような家）内観（2023 年竣工 大阪市 / 店舗付住宅）**
4. うねうね（2023 年 3D プリンターのプレファブ部材による休憩施設の計画案）資料提供：合同会社 ogawaa design studio
6. Lib Earth House modelA 製作 / 検証風景（2023 年 土を利用した 3DP 建築のモデルルーム）*
7. Lib Earth House modelA（2024 年竣工 土を利用した 3DP 建築のモデルルーム）写真提供：株式会社 Lib Work
8. 御色色素株式会社新本社社屋（2021 年～ 周辺景観の色や自然環境を取り込む事務所 / 研究所）資料提供：株式会社大建設計 + 合同会社 ogawaa design studio